



二葉幼稚園

2022年

園のたより



6月の聖句

さがしなさい そうすれば みつかる

マタイ7:7

6月のさんびか

ふしぎな かぜが

こどもさんびか かいていばん94



探ってみる

大学時代、初めての保育参観実習でのこと。自由遊びが終わり、クラスで対話が始まりました。一人ずつ楽しかったこと、伝えたいことを話していました。男の子が「○君と箱製作で拳銃を作りました。」と言うと「そう？どうやって作ったの？」と先生は子どもの気持ちを受け止めながら対話した後、最後に仰いました。「友達と一緒に作るのは楽しかったね。ただ一つ・・・先生はね・・・人が人を傷つけるような道具を、皆には持ってほしくないと思っています。」と。

毎月、園のたよりと一緒に配布している「こころの友」(日本キリスト教団出版局)。6月は詩画家:星野富弘氏が紹介されています。その作品に出会ってから、人生の折に触れ、私も支えられてきた詩や花々。今回も裏面に掲載されている「ハンカチの花」の詩を何度も声に出して読んでみました。

園での子ども達は、今、生き物や植物、友達、先生、様々な環境について探っているところ。昨年からブームのかたばみの葉っぱを集める姿、青虫、カブトムシの幼虫、メダカを観察する姿、ダンゴムシや蟻を探す姿、もみの木の新芽、種まきや苗の成長を楽しみにする姿、ウサギの身体や便に興味を持つ姿、砂、水、泥を楽しむ姿、どの瞳も真剣でキラキラと輝いています。「え?」「何これ?」「どうする?」「うわぁ!」「やるやる!」「見てて!」「行くよ」言葉での表現もあれば、ただ黙々とした表現もあります。ひとり一人の心が動き、安心して思いのままに活動する姿を護りたい。

ある暑い朝、水筒を忘れた ◆ 君のご家族が汗を拭き拭き、届けてくださいました。水筒を受け取った ◆ 君、ご家族が見えなくなるまで見送り、その後、こっそり自分だけのスペースを見つけ、正座して水筒のコップになみなみとお茶を注ぎ、注意深く口元へ運び、一気に飲み干しました。そっと見守る朝のひと時、 ◆ 君がご家族の愛情パワーチャージをしているようでした。子ども達はご家族の愛情に包まれ、そこからばたいてきます。先月も触れましたが、園でも抱っこを通し、毎日の呼びかけ、寄り添い、笑顔と涙の数だけ、少しずつ、先生達との愛着が育まれています。

先日、キリスト教保育の研修の中で、「愛」について考えるひと時がありました。聖書が指し示す神さまの愛とは、今、そこにいるあなた、弱さも無力さも含めたあなたに、目の前の存在に、価値を生み出していくこと。神さまの愛を知った先生達が、出会った子ども達ひとり一人をかけがえのない存在として大切にすること、と。そして、誰か一人にでも愛された人、大切にされた人は、また人を大切にし、人を愛していくことができる、と。園では、保育者の数より、圧倒的に子どもの数が多いです。ひとり一人に向き合う時は少ないかもしれませんが、けれども、実際に向き合う時ばかりでなく、子ども達が帰った後も、片付けながら、一日を振り返りながら、子ども達に思いを馳せています。その中で気づくこと、見えてくること、理解できることが増えていきます。子ども達は、先生が自分と向き合う時ばかりでなく、先生が誰かと、向き合う様子もよく見て、自分に置き換え何かを感じとっています。

「私達自身は、自分のしていることは大海の一滴にすぎないと思っている。しかし、その一滴がないために海は小さくなってしまふのだ。」(マザー・テレサ)混沌とした世界に痛みを感じながらも、祈ることで互いを感じ、繋がって、子ども達とともに「今、私を生きる」瞬間がありますように。自分の願い通りでなくとも「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門を叩きなさい。そうすれば開かれる。」神さまに用いられるまま、互いに「愛」をもって過ごしていきたいですね。【園長】